

英語スピーキング能力テスト TSST のご紹介

(株) アルク／アルク教育社

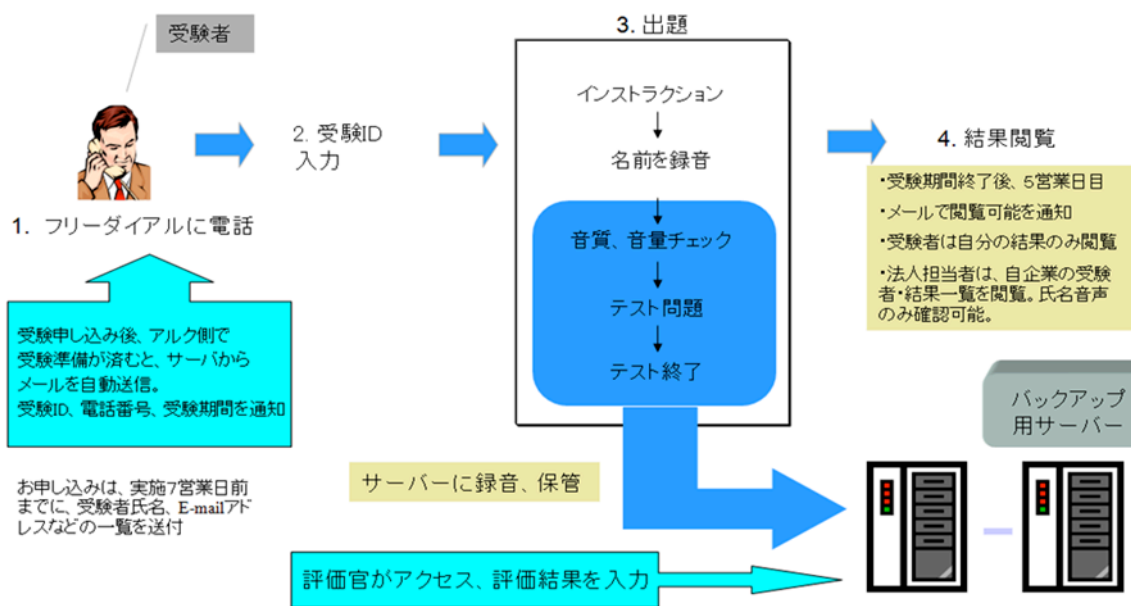
アルクは、1969年の創業以来、語学教材を開発して参りました。1997年からは米国の ACTFL (American Council on the Teaching of Foreign Languages 全米外国語教育協会) とともに開発した英語スピーキング能力測定の試験「スタンダード・スピーキング・テスト (SST)」を運用しています。

SSTは1対1の対面型インタビュー試験ですが、さらに試験を実施しやすくするため、電話を使った試験 Telephone Standard Speaking Test : TSST を独自に開発し、2004年から運用しています。海外取引の多い企業や英語教育に力を入れている大学を中心にご利用いただいています。

■TSSTとは

1. 固定電話・携帯電話を使い、約15分で完了
2. 受験期間中は24時間、受験可能
3. 計10問の質問音声自動的に、日本語・英語2言語で流れ、回答時間は1問45秒
4. 受験期間が終了後約1週間でWeb上に結果を提示
5. 訓練を受けた有資格者3人がWeb上で音声を聞き、評価を決定

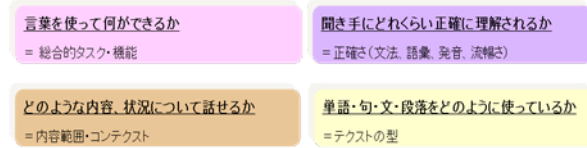
TSST実施の流れ



■ TSST の評価基準

SST・TSSTの評価方法

以下の4つの評価基準に基づいて、「英語を使って何が出来るか」を評価します。



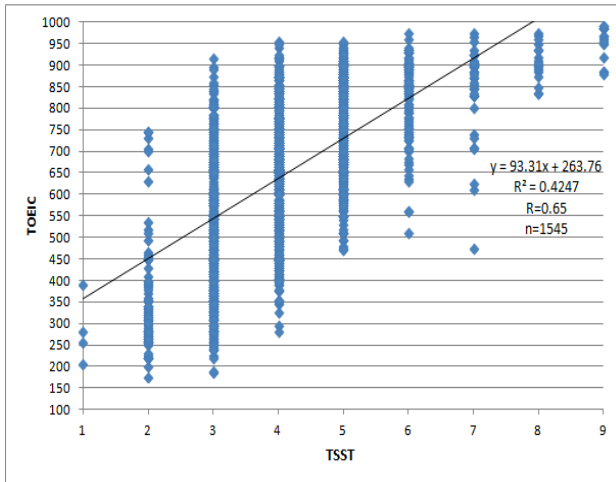
これらの評価基準に基づき、発話全体を見渡して評価を行う

= Holistic Rating

●T-SSTの場合は必ず3人の評価官が評価、その結果をコンピュータ処理して決定。

訓練を受けた評価者3人は、それぞれ独立して評価します。Language function / Comprehensibility / Text type / Content の4つの評価基準に照らして包括的に評価します (holistic rating)。他の受験者との比較ではなく、目標基準準拠型 (criterion-referenced) テストです。

■ 日本人の英語スピーキング能力

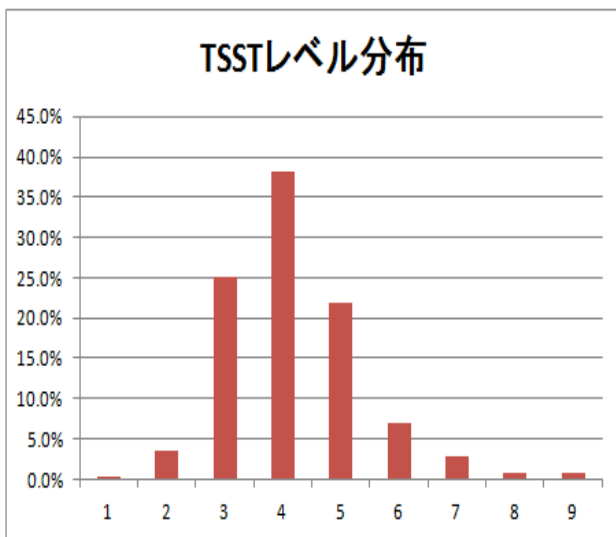


SST、TSST 累計(企業・大学)で約6万件の受験実績があります。そこから見える日本人のスピーキング能力の分布、並びに TOEIC (R) テストとの相関は、図のとおりです。

TSST	割合
1	0.1%
2	3.4%
3	25.1%
4	38.3%
5	21.8%
6	6.9%
7	2.9%
8	0.7%
9	0.7%

N=3427

■ TSST レベル分布



記憶した英語をそのまま声に出すレベル3から自分なりに文を作るが構造は単純で文法的誤りも多いレベル5で全体の80%強を占めています。その方々の TOEIC スコアは200~900点台まで大きくばらついてます。

11月9日の研究会ではさらに詳しい情報を交えて TSST をご紹介いたします。

T-SST の結果を元に、英語の発信力をあげるための Function Based レッスンも実施しております。詳しくは当日、お問い合わせ下さい。